

TOKYO

2023年度

交流会報告レポート

7月22日 東京都 / 7月29日 福岡県

FUKUOKA

助成先が広く参加できるように福岡でも開催

全国の先生や教育者の皆さんが自由につながることで、創発・越境、新しいトライが生まれてほしい。そのような思いの下に、財団では助成先の皆さまとの交流会をオンライン・オフライン（リアル）あわせて年6回ほど開催しています。今回は、オフラインの交流会を、さまざまな地域や立場の方々と対話を深める場としての東京開催と、「同じ地域内の繋がり」を期待して開催する福岡開催（地方開催）の2回を実施しました。

22日の東京会場は46名の方、29日の福岡会場は35名の方にご参加いただきました。今回は、日常から一歩離れ、責任や役割も少し手放して、自由にのびのびと考えていただくために、しばらくの間「名刺交換」はなし、名前と出身地だけお互いにお知らせする、という形をお願いしました。

その代わりに自己紹介として行ったのが、「ジブンオリンピック」。パステルで丸を五つ描いてもらい、それをもとに、名前とどこから来たのか、自分の作品のこだわりやポイントを話していただきました。





対話で「マイ・テーマ」を深めていく

今回の交流会のコンセプトは、「新しいトライ！が生まれていくために」。まず自分自身の「ほしい未来」を描き、それを深めていくために、「学びづくりとわたし」「わたし」の2テーマに沿った設問に回答いただきました。それをグループでシェアするのが対話第1弾。対話2弾では、先ほど設定した「マイ・テーマ」について3人1組で話し合い、気づいたことやアドバイスがあれば付箋に書いて相手にお渡ししました。



次は同じようなテーマを持っている方とグループを組んで、最後は「自分のテーマについて、協力者が欲しい、仲間が欲しい」という方に立候補いただいて対話するという形で進めました。



リアル交流から生まれる新たなトライ

最後に妹背正雄常務理事から、「福岡開催は初の試みで、中国・四国・九州一円から参加いただきました。また『名刺交換なし』も今回トライしてみました。今後も新しい試みをしていきたいと思いますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。この交流会の場は、ワークショップを通じて、気づきやヒントを得ていただき、これからの教育活動に役立ててもらうこと、また新しいコラボレーションが生まれるきっかけとなることを目的としています。民間の財団だからできる自由度の高い取り組みとイノベティブな視点をもって、皆さんと一緒に日本の教育を変えていく取り組みを継続していきたいと思いますので、よろしくお願いたします」とあいさつをさせていただき、閉会となりました。

福岡の会場ではこの後、中国・四国・九州のエリアで分かれて感想をシェアし、その後は懇親会で改めてお互いの肩書などを紹介しあって、再度交流を深めていただきました。



東京の交流会に参加して下さった皆さま

福岡の交流会に参加して下さった皆さま



参加者の声 (アンケートから一部抜粋して紹介)

- ▶学校ではどうしても形をつくることを優先してしまい、生徒が自分事と考えられる課題設定になっていないことに気づいた。いろんな立場の方が集まる場だからこそ、そのような意見を頂けて、新たな方向性・改善策が見えてきた。情報を得るという目的で来たが、今の取り組みを見直す機会となり、参加して良かった。(カテゴリー1・東京)
- ▶教員以外の外部の団体の方々の視点が教員である自分には新しいものだった。社会とのつながりが、外部団体の方々の方が密であると感じた。自分自身もっと動き、教育をより良くする方法を多角的に考えていきたい。(カテゴリー1・東京)
- ▶自分なりの「問い」に対する一つの答えが見つかったように思う。(カテゴリー1・東京)
- ▶成果・結果を焦ってしまっている自分がいることに気づけた。(カテゴリー1・東京)
- ▶交流会(他者)との関りで、自分(自校)の特徴は何か、足りないものは何か等が明らかになった。これは生徒も同様で、探究の中で他者と関わる機会を多く作れば、生徒の自己理解が進むと思う。(カテゴリー1・福岡)
- ▶本日の研修の内容自体が総探だということに途中から気づいていましたー！ 私たちは何時もファシリテーターとして機能していますが、自分自身を見つめ直し、自ら問いを立て、さまざまな意見を知り、自己の思考を深める実践ができました！来週からまた気持ちを新たに、総探を学校全体で取り組みます！(カテゴリー1・福岡)
- ▶先生方に授業づくり研修などの“場”づくりをすることも多いが、今日のワークショップに参加させていただいて、「参加者が“楽しい”と感じる場づくり」をしっかりとやっていきたいと思った。探究のネットワークをつくっていきたい。生徒同士、教員同士。(カテゴリー1・福岡)
- ▶自分の抱えているテーマは果たして問題なのか？ 解決すべき問いなのか？ 手段が目的となっていないか？といったことを、他校の先生と話すうちに内省できた。また自校の抱える課題は、他校でも同様の場合もあり、マッチングの可能性を強く感じた。(カテゴリー1・福岡)
- ▶先生方の声をもっと聴く・集める機会が必要。誰を元気にするのか？ 生徒だけじゃない。(カテゴリー2・東京)
- ▶「大人がやりたいことになっていないか？」「決めつけはないか？」を考えた子ども主体のプログラムを意識していきたい。(カテゴリー2・東京)
- ▶先生は忙しいのだと再認識。「楽しい」の反対は「～ねばならない」であることに気づいた。久しぶりに参加者側でイベントに出たので、いろいろ考えて楽しかった。(カテゴリー2・福岡)
- ▶「心のエンジン駆動」という同じ理想を持っているからこそ、悩みやその取り組みから得られる気づきがたくさんあった。こんな学校もあるのか、そんな土台がすでにあるならこんなこともできるかもというんな妄想が広がり、これからが楽しみになる時間だった。(カテゴリー2・5・東京)
- ▶生徒の将来に向け、さまざまな切り口から議論でき、私自身もモヤモヤしていた考えを言語化することができた。情報があふれる中で、求めている人に情報が届けられるよう、連携が必要ということも再認識できました。(カテゴリー3・東京)
- ▶高大連携、接続教育の大切さについて、若い人の成長という視点から重要だということが分かった。また高校でさまざまな探究学習や先進的な取り組みがされていることを知った。高校の探究学習コンテストの審査員をしているが、そこで活かすとともに、大学でのPBLへの接続と発展に活かしたい。(カテゴリー4・福岡)